

第4章 現職の前のキャリア

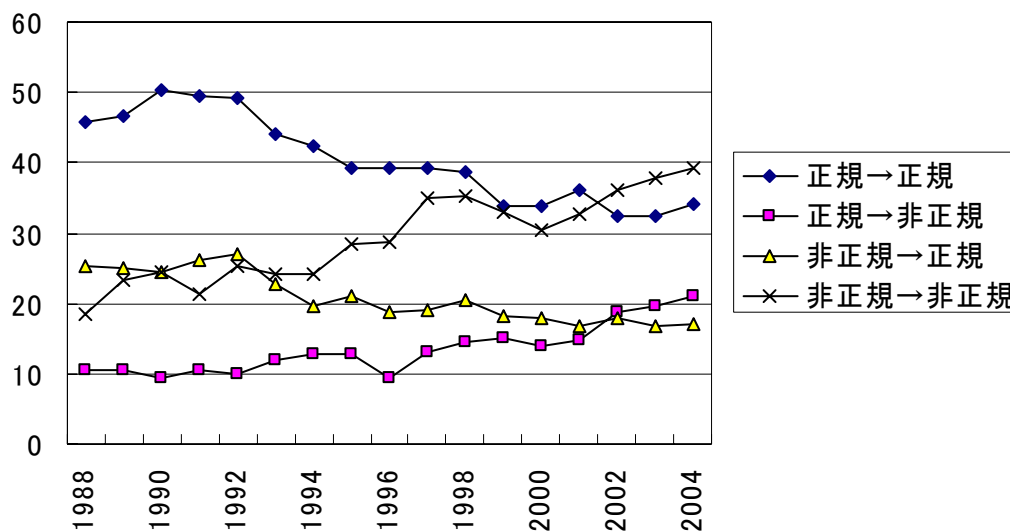
1. はじめに

この章は、現在の雇用形態別に、現職以前のキャリアを見る。フリーターをはじめとする非典型雇用のひとつの問題は、賃金格差などの労働条件の問題だが、もうひとつの問題は、いったん非典型雇用につくと、正社員への移動が少ないという、雇用形態間の移動の難しさである。

フリーターから正社員への登用については、非正社員比率が高い企業ほど積極的であるなどの指摘があるが、一方、「労働経済白書」（2005）では、「労働力調査特別調査」（総務省）をもとに、若年者においては、正規雇用者から非正規雇用者になる比率が高まり、逆に非正規社員から正社員になる比率が低下していることを指摘している（図表4-1）。

本資料で取り上げている「就業構造基本調査」（2002）では、現職の前の仕事を聞いている。そこで、ここで捉えることのできる前職と現職の関係から、正規雇用への移動の状態を測ってみよう。

図表4-1 離職者に占める就業形態別雇用者となった者の割合
(15-34歳・在学中の者を除く)



資料出所：厚生労働省(2005)『労働経済白書』

2. 前職の有無と現職就業理由

まず、図表4-2では、有業のフリーターおよび正社員について、雇用形態別に前職の有無を整理した。正社員では、男女とも3分の2が前職はなく、現在の仕事が初職である。これに対して、フリーターでは、6割前後の者に前職の経験があった。さらに1年前の就業状

況を見ると（図表4-3）正社員の場合は、9割方が仕事を主にしていたが、フリーターの場合、それは3分の2にとどまり、通学していた男女や、家事をしていたとする女性も少なくない。正社員のほうが長く同じ職場にいるのに対して、フリーターは就業以外の状態との出入りが多い。年齢別には（図表4-4）、年齢が高くなるほど前職の経験があるが、特に30歳代フリーターでは男女とも7割以上に他の職についての経験がある。正社員では30歳代でも前職経験のない者のほうが多い。正社員には、学卒就職して、そのまま継続している者が多いと思われる。

現職についての理由からも、その前の状態がよくわかる。図表4-5に見るとおり、「学校を卒業した」から就業したという者が、正社員では4割を超える。これに対して、フリーターではそれは1割程度で、失業や収入を得る必要が生じたことを理由に挙げている者が多い。失業や無業状態からフリーターにかわっている者が多いと思われる。

図表4-2 前職経験の有無（雇用形態別）

	有業者・前職の有無			合計	実数(万人)
	ある	ない	不詳		
男 フリーター	55.6	43.5	0.9	100.0	94.1
性 正規の社員	34.5	65.0	0.5	100.0	888.0
女 フリーター	62.9	36.2	0.9	100.0	130.9
性 正規の社員	32.1	67.5	0.4	100.0	476.4

図表4-3 1年前の就業状況

(単位：%)

	有業者・1年前の就業状況						合計
	仕事を主にしていた	家事・通学などのかわりにしていた	家事をしていた	通学していた	その他	不詳	
男 フリーター	65.8	6.8	0.8	10.4	15.1	1.0	100.0
性 正規の社員	92.2	0.5	0.1	4.4	2.5	0.4	100.0
女 フリーター	66.3	8.7	5.9	8.7	9.5	0.8	100.0
性 正規の社員	86.4	2.4	1.3	7.4	2.1	0.3	100.0

図表 4 - 4 年齢別前職経験の有無

(単位：%)

		有業者・前職の有無			
		ある	ない	不詳	
男性	フリーター	15-19歳	30.2	68.8	1.0
		20-24歳	51.2	47.9	0.9
		25-29歳	63.4	35.5	1.1
		30-34歳	70.7	28.7	0.5
	正規の社員	15-19歳	12.7	86.7	0.6
		20-24歳	24.6	74.8	0.5
		25-29歳	33.9	65.6	0.5
		30-34歳	40.6	58.9	0.4
女性	フリーター	15-19歳	37.7	61.5	0.8
		20-24歳	55.8	43.0	1.2
		25-29歳	71.9	27.1	1.0
		30-34歳	76.6	23.2	0.2
	正規の社員	15-19歳	12.7	86.9	0.5
		20-24歳	20.9	78.7	0.4
		25-29歳	34.5	65.0	0.4
		30-34歳	42.2	57.6	0.2

図表 4 - 5 現職就業理由

(単位：%)

		有業者・就業理由									合計	
		失業していた	学校を卒業した	収入を得る必要が生じた	知識や技能を生かしたかった	社会に出たかった	時間に余裕ができた	健康を維持したい	よりよい条件の仕事が見つかった	その他		不詳
男性	フリーター	29.2	10.0	26.5	5.8	2.8	1.4	0.7	5.7	16.6	1.3	100.0
男性	正規の社員	10.3	41.5	6.8	12.0	4.6	0.1	0.2	9.9	14.0	0.7	100.0
女性	フリーター	23.8	11.5	23.9	7.5	3.3	1.6	0.5	9.2	17.6	1.1	100.0
女性	正規の社員	7.9	45.2	6.1	16.4	4.1	0.4	0.1	8.1	11.1	0.6	100.0

さらに、図表 4 - 6 では、これを年齢段階別に見たが、正社員では、高い年齢段階の者でも「学校卒業した」が第一位にきており、学卒就職で定着している者が少なくない。また、フリーターでは、男女とも、比較的年齢が高いと「失業していた」が多く、「収入を得る必要が生じた」は男性では年齢の低い層に多い。20代後半や30代前半でフリーターになっている場合は、正社員での就業機会が得られないため、やむをえずフリーターになるケースが多いことがうかがえる。

図表 4-6 現職就業理由（年齢別）

		有業者・就業理由											
		失業していた	学校を卒業した	収入を得る必要が生じた	知識や技能を生かしたかった	社会に出たかった	時間に余裕ができた	健康を維持したい	よりよい条件の仕事が見つかった	その他	不詳	合計	
男性	フリーター	15-19歳	11.6	21.4	27.1	2.2	7.4	2.2	0.6	5.6	20.5	1.4	100.0
		20-24歳	24.4	12.7	29.9	5.9	2.7	1.8	0.5	6.2	14.7	1.1	100.0
		25-29歳	35.7	5.2	26.1	6.7	2.1	0.7	0.6	4.4	17.1	1.5	100.0
		30-34歳	42.3	3.8	17.8	6.5	1.5	1.0	1.3	6.7	17.9	1.2	100.0
	正規の社員	15-19歳	4.5	59.1	5.9	4.3	11.2	0.2	0.1	5.0	8.9	0.8	100.0
		20-24歳	8.1	48.4	8.0	10.3	6.6	0.1	0.2	6.8	10.7	0.8	100.0
		25-29歳	10.6	41.9	6.5	12.4	4.7	0.1	0.2	9.2	13.8	0.7	100.0
		30-34歳	11.3	37.1	6.6	12.8	3.3	0.1	0.2	12.2	15.8	0.7	100.0
女性	フリーター	15-19歳	14.4	23.2	27.2	2.1	6.3	1.9	0.1	7.4	16.6	0.7	100.0
		20-24歳	21.0	15.7	23.4	7.7	3.2	1.7	0.3	9.0	16.7	1.3	100.0
		25-29歳	28.7	6.8	21.4	9.2	2.9	1.5	0.5	9.6	18.1	1.2	100.0
		30-34歳	27.0	3.7	27.5	7.3	2.4	1.5	0.9	10.1	19.2	0.5	100.0
	正規の社員	15-19歳	1.8	65.5	5.8	5.7	7.4	0.2	0.0	4.5	8.4	0.8	100.0
		20-24歳	5.2	56.2	4.0	16.0	4.6	0.1	0.1	6.0	7.2	0.5	100.0
		25-29歳	9.1	42.5	5.7	17.2	4.1	0.3	0.2	8.8	11.3	0.8	100.0
		30-34歳	9.6	35.6	8.8	16.4	3.3	0.8	0.2	9.8	15.1	0.5	100.0

3. 前職の概要と離職理由

では、前職がある場合、その仕事はどんな仕事で、なぜ辞めてフリーターになったのか。まず、前職の就業形態を検討しよう。図表 4-1 のように、フリーターから正社員になる移動は難しくなっていることが考えられるが、このデータではどの程度移行しているのだろうか。図表 4-7 は、現在の雇用形態別に、前職の雇用形態の分布をみた。現在フリーターの場合、男性では、前職がアルバイトである者と正社員である者にほぼ2分される。女性も、パート・アルバイトを括ればほとんど同じ状況である。これに対して、正社員の場合の前職は、圧倒的に正社員が多い。アルバイトやパートから正社員になった者は、前職経験のある正社員のうち、男性で 16%、女性で 26%と多くはない。

図表 4-7 フリーターと正社員の前職雇用形態

(単位：%)

		前の仕事について・就業形態							合計	実数 (万人)
		正規の職員・従業員	パート	アルバイト	労働者派遣事務所の派遣社員	契約社員・嘱託	その他	不詳		
男性	フリーター	44.2	4.2	45.3	1.9	2.6	1.4	0.4	100.0	51.0
	正規の社員	78.6	1.2	14.4	1.0	3.0	1.5	0.4	100.0	298.5
女性	フリーター	40.1	18.9	32.7	3.2	3.9	1.0	0.1	100.0	80.2
	正規の社員	63.5	9.1	17.2	3.1	5.1	1.8	0.2	100.0	150.8

図表 4-8 前職雇用形態別にみた現職雇用の分布

(単位：%)

		前の仕事の就業形態			
		アルバイト・パート	派遣・契約・嘱託他雇用	正規の社員	不詳
男性計		100.0	100.0	100.0	100.0
現職 形態 就業	フリーター	29.9	10.7	7.4	12.9
	派遣・契約・嘱託他雇用	8.9	24.3	5.7	10.8
	正規の社員	55.3	57.9	77.1	61.2
	上記以外	5.9	7.2	9.8	15.1
女性計		100.0	100.0	100.0	100.0
現職 形態 就業	フリーター	31.7	14.3	15.2	11.3
	派遣・契約・嘱託他雇用	12.0	40.6	14.1	30.7
	正規の社員	30.5	33.1	45.3	39.3
	上記以外	25.8	11.9	25.4	18.8

注：上記以外の就業形態には、主婦パートや自営業主などが多い。

では逆に前職の雇用形態別に、現職の就業形態の分布がどう異なるかを見たらどうなるだろう。いったんフリーターとなったときの次の雇用はどうなるかという関心には、こちらの分布のとり方のほうがあたっていよう。

図表 4-8 にみるとおり、アルバイト・パート経験者のうち、正社員になっている者は、男性の 55%、女性の 31% と、特に男性では多い。これに対して、前職が正社員の場合は 8 割がたが現職も正社員になっており、これに比べれば少ない。しかし、非典型雇用から正社員への登用はある程度はあることをうかがわせるデータである。

さて、次に前職はどのような仕事で、どの程度の期間続けたのかをみよう。前職の職種分布を図表 4-9 に示した。フリーターに販売サービスが多い特徴は現職とかわらない。職業の上では、前職との一貫性も感じられる。前職就業期間が図表 4-10 だが、フリーターの場合、前職を半年未満で辞めている者が男性では 4 分の 1、女性でも 5 分の 1 を占め、正社員に比べて前職を短期のうちに辞めている者が多い。前職もアルバイトである場合が半数近くを占めるからだろうが、やはり全般に現在フリーターの者のほうが前職を短期で辞めている傾向がある。

図表 4-9 フリーターと正社員の前職の職業

(単位：%)

		前の仕事について・職業・大分類										
		専門的・技術的職業従業者	管理的職業従業者	事務従業者	販売従業者	サービス職業従業者	保安職業従業者	農林漁業作業従業者	運輸・通信従業者	技能工、採掘・製造・建設作業・労務従業者	分類不能の職業	合計
男	フリーター	3.8	0.0	5.8	18.1	16.7	2.6	0.7	4.8	43.2	4.2	100.0
性	正規の社員	8.3	0.1	7.4	22.1	9.9	1.6	0.7	6.9	39.9	3.2	100.0
女	フリーター	7.4	0.1	27.7	23.0	21.5	0.4	0.2	0.6	16.1	3.1	100.0
性	正規の社員	16.9	0.0	39.3	17.3	13.3	0.2	0.2	0.6	9.9	2.3	100.0

図表 4-10 フリーターと正社員の前職就業期間

(単位：%)

		前職期間											
		1ヶ月未満	1-6ヶ月未満	6ヶ月-1年未満	1年-2年未満	2年-3年未満	3年-4年未満	4年-5年未満	5年-7年未満	7年-10年未満	10年以上	期間不明	合計
男	フリーター	4.6	20.2	7.0	25.1	14.0	9.7	4.6	5.6	3.8	2.1	3.3	100.0
性	正規の社員	2.0	8.1	3.9	22.7	16.9	14.1	8.0	11.2	6.6	3.1	3.5	100.0
女	フリーター	3.5	17.9	7.5	25.7	14.9	10.3	5.7	6.0	4.0	1.7	2.9	100.0
性	正規の社員	1.5	9.4	6.0	25.3	19.0	13.7	7.1	9.0	4.7	1.6	2.7	100.0

図表 4-11 前職の離職理由

(単位：%)

		前の仕事について・離職理由											
		人員整理・勸奨退職のため	会社倒産・事業所閉鎖	事業不振・先行き不安	一時的・不安定な仕事だったから	収入が少なかったから	労働条件が悪かったから	自分に向かない仕事だったから	定年などのため	病気・家族の転職・事業所移転等のため	結婚・育児・看護等のため	その他・不詳	合計
男	フリーター	5.7	6.3	5.7	14.1	9.2	17.4	14.6	1.7	3.1	0.5	21.8	100.0
性	正規の社員	3.3	5.0	9.0	11.2	12.6	18.6	13.3	1.0	1.7	1.5	22.9	100.0
女	フリーター	4.4	5.1	3.2	9.4	8.6	15.5	13.3	2.7	4.7	5.3	27.7	100.0
性	正規の社員	3.0	4.1	4.1	13.8	7.2	15.0	10.7	3.2	2.5	9.0	27.4	100.0

最後に前職の離職理由を見る。この分布を見ると、現在正社員である者との違いは、あまり明らかではない。もともと一時的な不安定な仕事だったからという理由がとりわけ多いわけではない。

4. 小括

この章では、フリーターと正社員の現職雇用形態別に、前職について検討した。正社員の場合は、前職がないことが多く、学卒で正社員として就職し継続しているケースが少なくなかった。これに対してフリーターは、失業や無業を経験している比率が高いことがうかがわれた。

前職があるケースでは、正社員の場合は前職が正社員であることが多く、フリーターから正社員になった者は、正社員から正社員になった者に比べて非常に少ない。しかし、前職がアルバイト・パートである者を母数にして、これに占める現職正社員の者の割合をもとめると、男性では半数をこえ、一定範囲では正社員への移行も起こっていることが示唆された。